

(別記)

安城市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約 60%で、転作作物に占める小麦、大豆の面積が多く、土地利用型作物の担い手への集積が進んでいる。小麦、大豆については、団地化による低コスト生産に取り組んでおり、継続が必要である。

しかし、主食用米の需要が減少する中で、他の作物の作付けに転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ米の生産を行う。また、中食・外食のニーズに対応した業務用米の生産と安定取引の推進を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作作物として位置づけ生産の拡大を図る。平成 26 年産から主食用品種で取組みを始め、需要動向や種子の供給状況を見ながら、主食用品種での生産拡大を目指す。

イ WCS 用稲

畜産農家との契約に基づき、耕畜連携助成も活用しながら生産の拡大を図る。

(3) 麦、大豆

品質・生産性向上のため、団地化及びブロックローテーションを継続し、作付面積を拡大するとともに単収の向上を目指す。

(4) 野菜、果樹、その他食用作物

産地化と生産性の向上を図るため、また、ブロックローテーションに向かない小規模な水田の耕作放棄の防止のため、現行の作付面積を拡大する。

(5) 花き、その他非食用作物

ブロックローテーションに向かない小規模な水田の耕作放棄防止のため、現行の作付面積を拡大する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	1,735	1,710	1,680
飼料用米	58	70	75
米粉用米	0	0	0
新市場開拓用米	0	0	15
WCS 用稲	11	12	13
麦	1,088	1,150	1,200
大豆	997	1,100	1,150
飼料作物	1	1	1
そば	0	0	0
なたね	0	0	0
その他地域振興作物	54	56	59
野菜	50	50	51
花き	3	4	5
果樹	1	1	2
その他	0	1	1

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標	
				現状値	目標値
1	麦（基幹作）	生産性の向上等の取組 を行った麦への助成	単収	29 年度 413 (kg/10a)	32 年度 430 (kg/10a)
2	大豆（基幹作）	生産性の向上等の取組 を行った大豆への助成	単収	29 年度 123 (kg/10a)	32 年度 135 (kg/10a)
3	麦、大豆（二毛 作）	二毛作への助成	単収（麦） （大豆）	29 年度 413 (kg/10a) 123 (kg/10a)	32 年度 430 (kg/10a) 135 (kg/10a)
4	WCS、飼料用米	耕畜連携の取組への助 成	取組面積（WCS） （SGS）	11 ha 7 ha	13 ha 8 ha
5	野菜、果樹、その 他食用作物（基幹 作）	高収益作物（野菜等） に対する助成	取組面積（野菜） （果樹） （その他） （計）	50ha 0.9ha 0ha 50.9ha	51ha 1.2ha 0.7ha 52.9ha
6	花き（基幹作）	高収益作物（花き）に 対する助成	取組面積（花き）	3ha	5ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり